

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470500782		
法人名	社会福祉法人 寿泉会		
事業所名	八幡園グループホーム		
所在地	三重県津市津興2947番地		
自己評価作成日	平成28年11月21日	評価結果市町提出日	平成29年1月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470500782-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 28 年 12 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関係性を築くことで散歩の際などで挨拶したり声をかけられる仲間となり、自治会行事へ参加をすることで八幡園への興味を持って頂き同じ地域の中で共存している。立地条件もよく近くにスーパーや神社と近隣施設への散策を行なえる。デイサービスとの併設のため外部よりのボランティア(歌や踊り、イベント)への参加も出来デイサービスの方との交流も日々行なっている。食事作りやおやつ作り等利用者と一緒に実施できる、利用者よりの要望にもお答えできるような取り組みも行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市内で病院を運営している組織が立ち上げた法人で、特別養護老人ホームなど複数の施設を持ち、福祉事業を展開している。当事業所は同じ建物内にデイサービスがあり、地域包括支援センターの運営もしている。住宅街の中に立地しており、近くのスーパーに行ったり、保育園と交流の機会も多く、利用者は自然に地域との交流ができているがさらに開かれた施設となるように、月1回建物内を開放して地域カフェを開催して地域の人たちを受け入れ、事業所の利用者も参加している。職員は事業所理念をよく理解して、日々の利用者の支援を生き生きと実践しており、利用者の力に応じて一緒に掃除や日曜日の食事作り、おやつ作りの機会を作っている。家族も事業所の居心地の良さを感じ信頼している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が八幡園グループホームの理念を共有して実践している。目のつく場所に理念を掲げることで常に意識できる状況を作っている	法人理念を基に事業所理念が作られており、職員は採用時に理念が印刷された職員証を渡されて理念の重要性を認識している。事業所内目立つところにも掲示され、職員は日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会・お地蔵様を通じて近隣の方との関わる機会を持ち、地域行事や地域サロンへの参加時に双方より声を掛け合える関係を築いている	高齢者の住民の方を中心に友好的な地域性があり、地域の行事や地蔵祭りへの参加など、事業所は自然に地域に受け入れられている。地域ボランティアの活動が活発で事業所への訪問も多い。建物内では月1回地域サロンが開催されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流の機会を持つことで認知症の方についての理解を深めて頂けるよう働きかけしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の中で家族よりの率直な意見を反映できるよう職員への周知を行っている。また、提案等の意見をもとにサービスの質の向上に活かしている	自治会代表、民生委員、利用者家族、市担当者、地域包括支援センター職員が参加して隔月に開催され、事業所からの報告や市や地域からの情報を得る場となっている。近隣の事業所からの参加もあり、情報交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域包括支援センターへの相談、情報の共有ができる関係を築けるように常に試みている	運営推進会議への参加時、法改正などの行政からの情報を聞いている。また、計画作成担当者が認定更新やその他の事務手続きのため市役所に行き交流をしている。地域包括支援センターが同建物内にあり、情報を得ることができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに向けてのケアについて掲示物を目の付く場所に設置し啓発を行なっている。現在1名拘束の同意書を頂いているが拘束解除に向けて職員間で検討している(転落防止のため)	身体拘束しないケアについての指針があり、それを基に職員研修でその精神を深めている。ベッドからの転落の危険性が非常に高い利用者について家族の同意の上ベッド柵を使用しているが見守りを密にするなど、中止に向けての努力はしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について職員間で情報の共有をすると共にお互い見過ごすことなくスタッフ会議等で意見交換を行なうようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センターが併設していることから権利擁護についての質問や相談ができる場あり活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容を分かり易く説明を行い、専門用語など疑問点等には納得されるまで説明・対応を行い契約を行なうようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から意見を言い易い関係性を構築し、提案・疑問等をもとに質の向上として捉えている。推進会議等で家族からの意見を確認し改善する所はスタッフで協議し反映するようにしている	夏祭りやクリスマス会などの行事参加や運営推進会議参加時、家族の意見を聞く機会を作っている。改まった場では意見が出にくい職員との親しい人間関係ができていることから、日常の面会時など意見を聞くことができています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議や申し送り意見やケアの提案を出せるようにしている。また、日々の中で気がついた事などを業務日誌等に記録して検討している。ひやりはつとを検証し業務改善につなげている	月2回、運営会議とモニタリング会議が定期的により意見交換を行っている。日常は業務日誌に意見を記入する欄があり、記録を残している。職員間の意思の疎通が十分図られており、日常的に意見を出すことができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力を理解し得意不得意を見極めることでお互いが協力しやりがいや働き易い環境を作っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修も取り入れ多方面に向けて研修を受けられる機会を作っている。また、資格試験へのフォローは引き続き援助も行なっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じて交流の機会を作りサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	説明やアセスメントの際に不安な気持ちに共感し、分かりやすい言葉で安心感を与えられるように声かけを行い、接する機会を多く持ち関係性を構築するように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	以前の担当ケアマネジャー・ケースワーカー等との情報共有も行き共感と傾聴の気持ちで接し、不安感を取り除き安心して話せる関係作りを行なっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間で状況に応じて優先順位を見極め必要なサービスを提供できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に得意分野を活かしつつ、職員と一緒に出来ることに挑戦して頂ける環境を作り実施して頂いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への情報の提供と利用者個々の気持ちを代弁し、家族とも良い関係性が築けるように支援しています。行事や外出の支援などで家族に支えて頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域サロンを活用することで近隣の方とお会いできる場を提供している。面会や訪問があり、行き来しやすい環境を作っている。なじみの場所へ出掛ける行事の立案や季節のお便りを出して頂く取り組みをしている	地元出身の利用者が多く、同建物のデイサービス利用者や、買い物や地域の行事時馴染みの人と会話している。また、面会に訪れやすい雰囲気づくりをしており、家族や知人の面会が多い。主治医受診や馴染みの美容院へ家族の協力で行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ場所で生活する家族のように個々に助け合える所をフォローし相互に良い関係性が築けるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談窓口は閉めることなくいつでも相談に乗れるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の意向を確認し住み慣れた環境での生活が送れるよう努め、その人らしく安心して過ごせるよう対応している	会話ができる人は会話で、言葉が少ない人は表情や仕草で思いを把握している。利用者が答えやすいように、職員は声掛けの仕方や言葉を工夫している。入居時と共に定期的なアセスメントなどで情報収集をして真の思いの把握に努めている。情報は記録や会議で全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人よりの聞き取りはもとより、家族や在宅時に支援して頂いたCMを通じて情報を得て本人にとって住み良い暮らしとなるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活記録を重視し、変化・言動・行動をケース記録に記載し情報を共有することで新たな発見をすることができ、支援の幅が広がるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族から望む生活の目標をくみ取り実状に応じた介護計画を作成し、日々の生活の中で気づいたこと、変化等を定期的に検討することで計画内容の見直しをおこなっている	定期的な介護計画の作成、モニタリングを実施。ケア会議は毎月開催して職員全員で検討している。個々の介護計画が一目で見ることができるよう計画書は工夫されており、事務所内に掲示して要点や変更点にラインを引き全職員が把握しやすいようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録を詳細に記載することで職員同士の情報の共有と状態の変化、ケアプランの見直しに活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに応じて買い物や併施設内での行事等へ参加して柔軟に対応できるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会や近隣住民の方との交流、幼稚園・保育園などの地域資源を活用し楽しく生活でできるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医に受診の継続ができるように支援している	利用者・家族の希望で、8名の利用者が以前からのかかりつけ医が主治医で、定期的な往診や家族の協力により受診している。日常の健康管理は看護師が行い、受診の際の情報提供など、適切な医療のための支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタル測定や体調の変化時には看護師に報告・相談し迅速な対応が受けられるように連携を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際には病院との連携を図り、看護・介護サマリーを活用し情報の共有化を行い迅速かつ適切に対応ができるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いの場を持ち、今後の支援の方向性を確認し、出来る事・リスク等の確認、死への理解を家族もチームの一員として支援に取り組んでいる	看取り介護について事業所の指針が作成されており、利用者の状態に変化があった時、それに基づいて主治医の意見を踏まえ家族と話し合っている。職員はその対応について理解できており、研修も実施している。家族の希望や利用者の状況により系列の施設に移ることもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを作成し職員が日々目の付くところに掲示している。ひやりはっと等の事故について検証し対処方法を会議などで検討している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し火災への想定、地震への対応の研修会等に参加し知識を身につけ対応できるように努めている	年2回避難訓練を実施、その様子を運営推進会議でも報告して話し合っている。今年度は防災コーディネーターを講師に迎え、地震、津波についての研修を受け、職員の認識を深めている。食料等の備蓄はされている。	事業所は海拔が低い場所にあり、地震、津波の危険性は大きく、市指定の避難場所まで行くのは困難な状況である。被害を最小限にとどめるため、ヘルメットなどの準備とともに様々な状況を想定して対応についての指針を再確認されることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に声かけ確認を行い、同意を得た上で支援を行っている。プライバシーへの配慮を怠らないように対応している	利用者との会話や対応について、親しさの中にも年長者としての尊敬の気持ちをもって行うよう職員は自覚している。行事写真の掲示については家族の了解を得るなどプライバシーの保護についても配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけ確認の際に自己決定できるように分かりやすく説明しイエス・ノーで答えられるような説明を心がけている。気持ちの表出を言葉だけでなく表情や行動・ジェスチャーからも読み取るように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活パターンを理解すると共に、生活リズムを保てるように確認しながら支援を行っている。自由な余暇時間には何がしたいか、その都度意向を伺っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の洗面時に声かけにより整髪や衣装を確認しながら行っている。定期的に理容師が来ており支援を行なっている。イベント行事にはメイクやネイルを楽しんで頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの際には利用者の嗜好を確認しつつ広告を見ながら季節の物、一緒に調理ができるものを考え行なっている。環境面では台拭きや食堂の清掃を一緒に行い清潔を維持している	朝食と日曜日の昼・夕食以外、管理栄養士が献立をたて、デイサービスの厨房で調理している。日曜日の食事づくりは利用者の楽しみになっており、希望食を出したり、チラシを見てメニューを考えたりして調理にも参加している。日常はテーブル拭きや配膳に参加している利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量・水分量を把握し管理している。異常時には看護師・管理栄養士と相談し栄養補助食品を活用したりして対応している。体調変化時にはチェック表を活用し把握するようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に口腔ケアの習慣をつけて頂くよう声かけをし口腔内の清潔を維持できるように支援する。うがい動作ができない場合や誤嚥のリスクがある場合には口腔ウエットティを使用し対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの情報を職員間で共有し、利用者によって声かけのタイミングを変え失禁を減らすことで自信につながり安心して生活ができるように支援している	立位困難などやむを得ない利用者以外ではできるだけ自立した排せつ行動ができるよう、直接的な介助は控え、排せつパターンを掴んだり、利用者の表情や仕草を観察することで、周囲に気づかれぬように声掛けをして支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を確認しながら自然排便を行えるように運動や食事・水分などで対応している。便秘気味の際には乳製品の活用や服薬によりコントロールしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に5日の入浴日を設けることで体調や希望に応じて入浴して頂いている。入浴剤や声かけにより安心して気分良く入浴できるようにしている	週5日は入浴可能日として、利用者の希望や体調に合わせて入浴日を決め、入浴している。浴室には浴槽が二つあり、気の合った人同士で入浴しており、希望の入浴時間や湯温の調整ができる。入浴剤や職員が持ってきた花や柚子などで入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調面に考慮し個室で休息できるようにしている。ホールではソファを設置いつでもゆったりと過ごせる環境を整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師による服薬管理を行い、状態の変化時などに主治医と相談し確認できる関係性を築いている。飲み忘れなどないように職員同士で服薬確認作業を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、タオルたたみ、ゴミ捨て、掃除、台拭きなど役割を作ることで意欲の向上につながり毎日の日課として行なっている。個々の得意なこと・好きなことを把握し、楽しい時間として実施して頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員での外出は難しい状況ではあるが、希望に応じて近所への散歩や市内の散策など気分転換につながるよう支援を行なっている	それぞれの季節に合わせ、初詣や花見などの行事としての外出を実施しているほか、利用者の希望により近くのスーパーへ出かけている。また、地域の地藏堂にお参りに行くこともある。体力低下で遠方への外出がしにくい利用者も、天候の良い時に玄関先で日光浴をするなど外気浴している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の取り扱いができる方については、近所のスーパーへ出かけ自分で支払いが出来るように働きかけている。管理の難しい方については職員と一緒に買い物に行き購入支援を行なっている。お地藏様へのお賽銭をしたいと希望のある方には小額の金銭をご自身で管理して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状、希望時にお手紙の支援と家族様へのやり取りが出来るように支援を行なっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度管理や清掃活動を行う事で清潔感ある空間を提供している。季節の花や飾りにより季節感を出すことで今の状況を把握できるように努めている。廊下の壁面には今まで作成した壁面飾りを掲示し作品を振り返ると共に四季折々の会話ができるようにしている	フロアの中央に大きめの楕円形のテーブルがあり、家族などの来客があってもゆったりと座れる。事業所全体が広いため大きめのテーブルも動線の障害になっていない。居室前の廊下は職員のアイディア溢れる飾りつけで、利用者が迷わないように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースやソファーといったスペースを確保し自由に使用できるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と一緒に撮影した写真をはったり、在宅で使用していた物や飾りを取り入れることで安心感を得られ、居心地良く過ごせる空間作りを行なっています	居室は広く、窓には和障子のはめられ柔らかい明るさである。トイレと洗面台が設置され、ベッド・筆筒が備品となっているが、各自馴染みの物が配置され、家族の写真などとともに利用者の個性を出している。毎日職員と一緒に掃除をしており、清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる、わかることが維持・継続できるように心身機能の活用を職員間で理解し声かけを行う事で残存機能の活用できるよう支援する		